

企業組合みのぶゆばの里・とよおか 南アルプス特産品企業組合・ほたるみ館

「がんばる中小企業」
小規模事業者300社に
県内から2組合が選ばれる！

ACTIVE KUMIAI

企業組合みのぶゆばの里・とよおか(井出正博理事長)及び南アルプス特産品企業組合・ほたるみ館(新津なお志理事長)の2組合は、中小企業庁が推薦する「がんばる中小企業・小規模事業者300社」に選出された。

これは、高度な技術や革新的なビジネスモデル、新しい価値や市場の創出、地域貢献または地域経済に波及する取組を行う組合、企業等を選定するもので、今回本県から特に他の模範となる事業活動を展開している次の2組合が選ばれた。

企業組合みのぶゆばの里・とよおかは、身延町の生ゆばは身延山久遠寺の僧侶たちの貴重なたんばく源として古くから食されており、今日では精進料理に欠かせない食材となっている。その伝承と地域の活性化のため、平成15年にゆば伝承の拠点となる施設整備を行うとともに企業組合を設立し、生ゆばの製造や豆乳を利用した関連製品を開発し製品化している。また、生産者の登録により地元の農産物・加工品の販売や食事処「清流」では、ゆば料理を提供し特産品としてのゆばをPRするなど地域貢献度が高い。

また、南アルプス特産品企業組合・ほたるみ館は、地産地消の普及を目的に、市場に出荷できない農産物を有効活用するため、地域農産物の加工販売(ジャム、製菓、味噌等)を中心に、地元学校給食への食材の提供や、小・中学、一般を対象とした体験学習などを行っている。特に、組合員のほとんどは農業者であり、生産から始まり加工製造し、自ら運営する指定管理者施設(ほたるみ館、まちな駅・くしがた)で販売を行っているなど、組合員の意識も高く、販路拡大による売上高も年々拡大し、地域貢献も高いことなどが選出のポイントとなった。

なお、全国から選出された300組合等に対して3月に表彰式と併せて、受章事業者を集めた展示会が行われ、代表者に表彰状が贈られるとともに、組合・企業等の取組を幅広く周知する機会が与えられる。



外観(みのぶゆばの里)



体験教室の様子(ほたるみ館)